

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 赤 間 栄 夫

歲月は人を待たず

護寺会会長 赤 間 栄 夫

皆様には常日頃浄泉寺の護寺運営にご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

年齢を重ねるにしがたい一年の経過が短く感じられるといわれますが、会長に就任して早いもので一年がアツという間に過ぎ去り成程と実感しております。

昨年は宗祖親鸞聖人の750回ご遠忌法要として、今年は4月1日から6日まで東本願寺において春の法要がとり行われ、2日から4日まで、東本願寺を創立された教如上人の400回忌法要が昼夜にわたって厳修されました。

▼東本願寺創立の祖

教如上人は、東本願寺創立の祖で、1558年に顕如上人の長男として誕生し13歳で得度されました。10年間に及ぶ「石山合戦」では、本願寺を死守する僧侶・門徒らと共に織田信長と徹底抗戦をし

ましたが、朝廷の和睦のすすめによつて終焉を迎えます。しかし、再度信長から一方的に「本願寺地の明け渡し」など厳しい条件を突きつけられ、顕如はそれを受け入れます。

教如はそれに反対し籠城して顕如から義絶されました。この籠城は、仏法領を権力に奪われてはならないという、門徒や家臣の熱意を受け止めての教如の行動であったといわれています。それから2年後、天下人となった豊臣秀吉は本願寺に対して好意的な姿勢を見せ、秀吉による土地の寄進によつて大阪石山本願寺から京都堀川に移転をしました。「本能寺の変」後に教如は顕如からの義絶を解かれております。

教如は顕如が亡くなり、35歳で本願寺の第12代を継承しましたが顕如の「留守職譲状」により弟の

准如（顕如の三男）に継承されることになりました。教如は秀吉の指示を了承しましたが、家臣たちが抗議し、それが秀吉の怒りに触れ、教如は隠退させられ、本願寺は弟の准如が継承しました。それが現在の西本願寺です。

教如が隠退を命じられ5年が過ぎ、時代の勢力は徳川家康へ。教如は隠退後も門主（門首）としての活動を続けており、その中で家康と親交も厚く1602年、家康より京都東六条の土地を寄進され、ここに東本願寺が創立されました。

散らさじと森部の里に埋めばや
かげはむかしのままの江の月
（教如上人辞世のうた）

▼護寺会の総会

6月30日本堂にて開催され、役員の改選期ではございませんが辞任をされた方がおり、理事と副会長の補充が行われ、その他の項では同朋の会の説明と協力についてのお願いがあり原案どおり承認されました。厚く御礼申し上げます。

合 掌

親鸞親子一行の関東への旅

責任役員 赤間 栄夫

▼善光寺より関東へ

親鸞聖人親子一行が参拝逗留した善光寺の百日間には聖人が、しばしば戸隠山に登っており、この山で採られた熊笹の葉を並べて書いた「笹文字御名号」が常照寺の寺宝となっております。

善光寺の山門をくぐると、右手に松の小枝を持った親鸞聖人像があります。これは親鸞が善光寺に参拝するたびに松の若木の枝を本尊に供えたとの故事に基づくものといわれ、金堂の大華瓶に大きな松がいけられていて、寺ではこれを「親鸞松」と呼んでおります。

さらに親鸞が爪で彫ったという「爪彫り阿弥陀如来像」を安置したお堂があつて、善光寺と親鸞との関係が極めて密接であることが理解できます。また、善光寺の北側にそびえ、古来信仰と修験道で有名な戸隠山にも親鸞の伝説がい

くつか残っています。

親鸞親子の一行は、千曲川沿いに進んで現在の軽井沢近辺より碓氷峠を越えて関東上州の地へ入ったものと推定されます。

▼もう一つの説

親鸞一行は現在の前橋市の元総社町（当時の国府の所在地）辺りより舟にて利根川を下り、現在の邑楽郡板倉町辺りで上陸して、ここにしばらく滞在したのではないかというものです。

上野国（現群馬県）の形を見ると、大きな鶴が羽を拡げて羽ばたいているように思えます。その鶴の頭にあたる部分が現在の群馬県邑楽郡になります。この邑楽郡の板倉町が恵信尼文書に出ている佐貫の地にあたると現在では考えられています。

佐貫という地名は「口伝鈔」に伝えられている記述によって知ら

れていました。それによると、下野国（現栃木県）さぬき（原文のまま）というところです。そこで恵信尼は夢を見ました。お堂で法要が営まれているようで舞楽がおごそかに行なわれ、空中に神社の鳥居のようなものがあり、その横木に、二幅の絵像本尊がかかつていて一幅はすがたかたちがなく、ただ金色の光明が輝くだけで、もう一幅の方は、その尊いお姿がはつきりと現れていました。光明輝く本尊について問うと「あれは大勢至菩薩で法然上人のことです」といわれました。もう一幅の尊形について問うと「あれは大悲観世音菩薩で、善信御房（親鸞のこと）であられます。」といわれたとたんに夢から覚めたということです。恵信尼がこのことを親鸞に告げると「そのとおりです。大勢至菩薩は智慧をつかさどる菩薩であり、智慧は光明として現れるものですから、光明だけで形体はないのです。法然上人が勢至菩薩の化身であるということは、世の

人々の評判になっっていることです」とおっしゃられました。もう一方の親鸞の本地（もとの本体）が観世音菩薩であるとはさすがにばかれて申し上げられませんでした。この恵信尼の夢の件は、覚如の「口伝鈔」によりよく知られておりまして「佐貫」は栃木県に比定する説が有力だったのですが、大正年間における恵信尼文書の現物が発見されたことで群馬県の板倉町一体の佐貫に比定されることになったのです。

▼恵信尼の手紙

恵信尼の夢の件は、常陸（現茨城県）の国、下妻のさかいの郷に滞在していたときのこと、実際は三部経読誦の中止ということだったことが明らかにになりました。

またこの体験の地である佐貫も「武蔵の国やらん、上野の国やらん」と伝えられており、「口伝鈔」のいうような栃木県ではなく群馬県邑楽郡の佐貫であることも明らかになったのです。

（「親鸞の教えに学ぶ」より）

同朋の会結成に思いを馳せて

住職 赤羽根 證 信

およそ50年ほど前になります。

親鸞聖人の700回ご遠忌を迎えるにあたって、宗門を代表する暁

鳥敏宗務総長は「真宗門徒一人もなし」との白書を出され、ご遠忌

を期に「親鸞にかえれ」の運動が盛んに行われ、様々な組織がたて

られて行きました。その一つが宗祖親鸞聖人の申された「念仏者は

みな御同朋御同行なり」の精神を生かして建ちあげられたのが真宗

同朋の会です。

このたび遅ればせながら浄泉寺においても同朋の会を組織したいと思っております。

「私達にとって寺はどの様な存在なのだろうか、私はどんなものになろうとしているのか、寺に寄り合い話し合いの場を通してあらためて自分をあきらかにして行きたい」そんな思いが湧いてきました。

堅苦しいものでなく、気さくに気軽にもう一人の自分に会いに来た

様なそんな会になって行けばいいのではないかと思っております。

▼「あ・いた・く・て」工藤直子

だれかに あいたくて

なにかに あいたくて

生まれてきた――

そんな気がするのだけれど

それが だれなのか なになのか

あえるのは いつなのか――

おつかいの とちゅうで

迷ってしまった 子どもみたい

とほくに くられている

それでも 手のなかに

みえないことづけを

にぎりしめているような気がするから

それを手わたさなくちゃ

だから あいたくて

過日の護寺会総会で皆さんから

ご意見をいただきました。一人ひとりの思いをより合わせて進めて

行きたいと考えております。

どうぞ振ってご参加くださいま

す様心待ちにいたしております。

浄泉寺護寺会総会報告

平成25年度浄泉寺護寺会総会が去る6月30日(日)午後1時から浄泉寺本堂にて開催されました。

出席者全員による正信偈唱和、「俱会一處」前での焼香の後、総会の開会となりました。

蘇武理事司会のもと、赤間会長、住職の挨拶に続き、文屋氏が議長に選出され、事業報告等の議案を審議、全て満場一致で可決承認。

▼平成25年度総会議案

平成24年度事業報告

平成24年度収支決算報告

上山研修基金報告

特別会計「維持改善基金」報告

監査報告 監事内田政明氏

平成25年度事業計画の承認

平成25年度収支予算の承認

役員一部改選

副会長 佐々木芳雄、蘇武則行

理事 菊池正典(二ノ構) 新任

総会終了後には、恒例となった

門徒皆さんでの懇親会が行われました。

お盆の行事について

◎8月7日、午前5時から一斉清掃(墓地、境内地)、各自の墓地と本堂境内周辺の清掃を行います。

6時から朝の勤行(おつとめ)、本堂で茶会、7時に解散となります。

◎8月13日～16日の夜6時30分～8時、万灯籠会が行われます。

参道両側の灯籠に、赤あかと灯がとまり、幻想的な雰囲気の中で墓参りは、夜の風物詩ともなりました。是非、ご家族揃って出かけください。

なお、灯籠記名のお申し込みは地区役員か寺までご連絡ください。会費は一基千円となります。

お墓参りのお願い！

○造花はあげないでください。

○お供物はお持ち帰りください。

○茶わん、カン類等、燃えない

ゴミはお持ち帰りください。

○ゴミ置き場には、紙、樹木、生

花以外は捨てないでください。

仙台組主催上山本廟奉仕研修に参加して

浄泉寺門徒 鈴木賢治

浄土真宗の教えでは「心身ともに健康な今を大切に生きる」ために帰敬式を受け法名をいただくのです。

3年前、縁あって浄泉寺住職赤羽根證信師と出会い真宗の教えを学んできた中で、法名は自分が教えに出会い生まれ変わった時にいただくもので、「生まれる」とは、この肉体ではなく、私の「心・魂」のことで体内に宿っている精神作用をつかさどる心



が生まれ変わることだと知りました。

最近、浄泉寺朝詣りに参加して皆さんと話をしているとき、4月に本山で行われる春の法要と帰敬式研修への参加のお誘いを受け「仏法は一人ひとりのみぎり」と考え早速参加を約束いたしました。

県内の寺から合計13名の参加でした。4月1日、世界最大のみ堂真宗本廟で影堂で宗祖親鸞聖人ご誕生会音楽法要。4月2日は、東本願寺を創立された教如上人の400回忌音楽法要に参列して、華やかな中に荘厳な法要の素晴らしさに感動しました。翌3日、同じ影堂で全国各地から参加された人々と帰敬式に臨みました。帰敬式は、真宗大谷派第25代門首釈浄如師によつて大勢の参詣者に見守られ、宗祖親鸞聖人ご真影の間近での執行は身の引き締まる思いでございました。

受式後、同朋会館（研修セン

未亡人

広辞苑には「夫が先に死亡した婦人 みぼうじん・転じて寡婦、ごけなどと称される人」とある。

差別語の一つではないのかと思ったが、夫に先立たれる、つまりは「二夫に仕えず」との強い意志であり殉死につらなる意味で、今、未だ亡きに至らない人。

その内なる思いを感得すれば、極めて清楚な一面さえ感じられる。古い話になるが、戦後強くなったのは女と靴下という戯言さえあった。

多くの宗教では一般的には今も女人禁制であるが、わが浄土真宗は女性住職も増えている。もっと身近に「念仏者は無碍の一道なり」

(歎異抄より)

ター）講堂で担当教導さんより「ご法名」を授与されました。

法名は「釈暢要」と名告りされ、仏説無量寿経の中の「究暢要妙」阿弥陀仏の本願が広く行きわたる最も大切なこととあり、「暢要」とは、阿弥陀仏のはたらきに出遇うことを大切にして人生を歩んでほしいという願い、「念仏者として教えを大切に、聞法生活を送って欲しいとの願いが込められています。」と説明がありました。

あまりの大きな法名のよびかけに戸惑いながら如来の深い思いに恐縮すると同時にご住職を善知識（よき指導者）と仰ぎ、聞法に精進し、浄土真宗の教えを広めて行くお手伝いをさせていただきたいと思えます。

あ

と

が

き

梅雨期に、山菜の「ミズ」を求めて山に入る。放射能騒ぎで来ている人はあまりいない様だ。30分も歩くといっぱいになり、二人暮らしの我が家ではもう沢山。

庭先で今、あじさいの花が真っ盛り、いろんな色に咲いている。名も知らぬ花では失礼か、苗代グミが可憐な赤い実をつけている。「ウグイスカグラというのですよ」と家内が言う。誰が名付けたか素敵な名前である。その根拠など知りたいとヤボな理屈をこねている。

全く…、老いの身の醜さよ……

南無阿弥陀仏